

平成28年度 事業報告

(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

(はじめに)

大阪対がん協会は平成25年8月1日付で旧財団法人から公益財団法人に移行した。今回は公益財団法人に移行して4期目、期間は平成28年4月1日から平成29年3月31日までの報告となる。

《公益目的事業》

(公1)普及・啓発活動： 啓発イベント開催・情報発信・がん検診の奨励など

【がんに関する啓発イベント】

▽主催行事

① 大阪対がん協会セミナー

単独で運営する啓発イベント「大阪対がん協会セミナー」を今年度は2回開催した。会場は大阪市北区中之島の朝日新聞アサコムホールで、第1部の基調講演の後、新たな取り組みとして過去のがん研究助成奨励金受賞者が、当日のテーマと受賞時の研究内容を関連させた講演を行い、第2部の患者を交えてのシンポジウムでは、医師、研究者、看護師、患者が意見の交換を行い、参加者にそれぞれの立場から考える機会を提供した。2回とも学生の参加も多く、質問も多く出て活気のあるセミナーになった。また、9月4日開催のセミナーでは、参加者にマンモグラフィ検診無料クーポン券を配布し好評だった。

各回のテーマと基調講演は次の通り。

開催日	テーマ	基調講演(敬称略)
9月4日	若い時から乳がんを識ろう ～乳がんの見つけ方と治し方～	玉木 康博(大阪府立成人病センター 副院長)
1月21日	もう一つの人生を拓く ～在宅医療について考える～	長尾 和宏(東京医科大学 客員教授)

② 成人病公開講座

大阪府立成人病センター、大阪成人病予防協会とともに4回開催した。いずれも大阪府立成人病センターで開き、会場は毎回満席である。府立成人病センターの医師らが中心となり講師を務め、図や表などを織り交ぜて、分かりやすく説明している。各回のテーマと講師は次の通り。

回数	開催日	テーマ	講師(敬称略)
72回	6月14日	大腸がんの最新トピックス	竹内洋司、河村卓二、安井昌義、吉波哲大
73回	9月13日	泌尿器がん治療における最近の進歩	西沢和郎、野澤昌弘、垣本健一

74回	11月8日	がんの免疫療法	難波良信、井上貴子、爲政大幾
75回	2月14日	皮膚病変とがん	爲政大幾、園田早苗、西野和美

③ がん予防キャンペーン大阪2016

「がん予防キャンペーン大阪」実行委員会が主催するシンポジウムは、10月1日大阪府中央区大手前のドーンセンターで開かれ、約250人の参加があった。当協会は実行委員会を構成する11団体(主催:11団体、後援:27団体、協賛:4団体)の一つとして15万円を負担した。構成団体はほかに大阪府、大阪市、大阪府医師会などで、事務局は大阪府保健医療財団が担当している。今年度のテーマは「正しく知ろう！肺がんと最近の治療法」で、2人の講師が、それぞれ「肺がんて命を失わないために—予防と検診—」「最近の肺がん治療—その進歩と今後の課題—」について講演を行い、総合討論も行われた。当キャンペーンは、大阪府のがん死亡率と検診の受診率を少しでも改善することを期待して毎年行われている。

④ 遺贈セミナー

(主催は日本対がん協会、大阪対がん協会)

遺贈セミナーはがんと相続・遺贈についてのセミナーで、3月6日大阪市北区の阪急ターミナルスクエア17で開かれた。第1部は日本対がん協会 垣添会長が「人はがんとどう向き合うか」をテーマに講演。第2部は三井住友信託銀行の財務コンサルタント山極氏が「優しい相続・遺言の話」を演題に話した。夫婦での参加も多く、がんと相続・遺贈についての情報を提供することができた。

▽「共催」「後援」行事

自治体、医療機関、患者団体などが主催するイベントに対して、協会が「共催」や「後援」をして支援した。協会ホームページの「講演会・イベント情報」欄にアップしたほか、朝日新聞大阪版のお知らせ欄「TOWN」への掲載などで広報PRに務めた。また、協会発行の小冊子「進め！がん防衛隊」を参加者に配布したイベントもあり、イベント支援を通じて他団体と信頼関係を築くことに努めている。

【がんに関する情報発信】

① オリジナル小冊子などの配布

協会発行のがん啓発小冊子「進め！がん防衛隊」を配布し、多くの方にがんを知るきっかけにしてもらった。主催行事などで配布を続けている。また、医療機関からの問い合わせもあり、大部数の場合は1部60円で販売を行った。また、がん検診を勧めるチラシを2種類作成し配布した。

② 協会ホームページ

インターネットによる情報収集の広がりに対応するため、平成22年5月に協会ホームページを開設し7年目を迎えた。内容の充実と更新で最新の情報提供に努めた。協会が主催・共催・後援するイベントの告知、がん研究助成奨励金事業の詳細を掲載するほか、決算書などの情報公開資料も開示している。

③ 事業概要・協会報

8月に「平成27年度事業概要」を発行した。27年度の事業内容や寄付者名簿のほか、がん研究助成奨励金受賞者も併せて掲載した。協会報は5月、12月に発行した。

【日本対がん協会関連事業】

「日本対がん協会大阪府支部」としてがん征圧事業で連携、協力を進めた。

① がん征圧月間

9月を「がん征圧月間」として日本対がん協会が展開する各種事業に参加・協力した。メイン行事として京都市で開かれた「がん征圧全国大会」に専務理事が参加した。共通デザインの「がん検診の推進」と「禁煙」の2種類のポスターを100枚製作し、大阪府医師会、大阪府看護協会など関係各団体へ送った。

② 近畿ブロック会議

日本対がん協会と近畿2府4県の支部が、がん征圧事業の報告や意見交換をする近畿ブロック会議は10月6日、奈良市のホテル日航奈良で開催された。事前に各支部から出された質問に日本対がん協会と他の支部が答える形式で、検診に関する動向や各支部運営の管理面について話し合いが持たれた。

③ 乳がん検診無料クーポン券の活用

日本対がん協会が発行しているマンモグラフィ検診無料クーポン券を活用し、がん検診の受診率向上に取り組んでいる。クーポン券は主催・共催行事である大阪対がん協会セミナー、がん予防キャンペーン大阪などに参加された方にプレゼントした。

【患者支援活動】

患者会からの依頼があればイベントのPRなど告知面で協力した。

(公2) がん研究助成： がんの研究、治療に当たる医師、看護師らへの助成

【がん研究助成奨励金】

新進の研究者・医療従事者（基礎・臨床・疫学は40歳未満、看護等は45歳未満）を支援する「がん研究助成奨励金」事業は協会の目玉事業である。同事業は協会設立翌年の昭和35年度から始め、今回で57回目を数えた。28年度は「基礎」「臨床」「疫学」「看護等」の4部門で計15人の受賞者を選び、各30万円を贈呈した。今年度は計68人から研究成果の応募があり、外部の専門家など13人の選考委員が採点した結果をもとに2月17日に開かれた選考委員会（委員長＝松浦成昭・協会長）で受賞者を選んだ。受賞者は今回で延べ1689人、奨励金の総額は3億9880万円となった。

贈呈式は3月6日、大阪市北区中之島の朝日新聞大阪本社のアサコムホールで開かれ、松浦会長が受賞者一人一人に賞状と奨励金30万円を手渡した。受賞者を代表し、臨床の部で受賞した小林祥久さんがあいさつをした。

なお、この事業にはMSDから特定寄付として費用の一部について支援を得ている。

《会員向け事業》

主に賛助会員向けの特典として協会が進めてきた事業について、公益財団法人移行後は「その他の事業(相互扶助等事業)」として、公益目的事業と区分している。28年度も以下のような会員向け事業を継続実施した。

(他1) 賛助会員サービス： 定期的な情報の提供・がん検診の奨励と援助

【情報の提供】

① 協会報

協会報は5月、12月の2回発行した。各1200部印刷し、内容は以下の通り。

発行月	主 な 内 容
5月号	平成27年度がん研究助成奨励金贈呈式・受賞者紹介、がん検診実施のための指針、イベント情報、会員に皆様へのお願い
12月号	平成28年度がん研究助成奨励金の募集内容、秋のイベント報告(大阪対がん協会セミナー、成人病公開講座、がん予防キャンペーン大阪)、イベント情報、がん5年生存率とサバイバー5年生存率、来春のがん検診案内

② 事業概要

「平成27年度事業概要」を8月に発行した。1200部印刷し、会員のほか、関係機関、希望者に郵送した。A4判で42ページ。従来通り事業報告、決算報告、寄付者名簿などを掲載、がん研究助成奨励金の平成27年度受賞者15人の研究内容を8ページにわたって紹介している。普及啓発活動の紹介の項目では、協会の主催・共催・後援イベントの一覧表を掲載した。

【がん検診の案内・援助】

① 春・秋のがん検診

会員向けがん検診は春と秋に行っており、春(4月～5月)は大阪がん循環器病予防センター、秋(10月～11月)は大阪府医師会保健医療センターで、胃、大腸、肺、乳腺、子宮の5部位について実施された。春の検診は会報12月号、秋の検診は8月に案内、受診の勧奨に努め、28年度は延べ107人が受診した。

がん検診の奨励に対する協会の負担は、春は検診受診票の送付切手代や印刷費の事務経費、秋は検診施設である医師会保健医療センターへの3万2千円の助成金である。

② がん検診サービス券

賛助会員への新しいサービスとして23年度から始めた「がん検診サービス券」(千円分)の発行・配布を28年度も継続して行った。検診施設でがん検診を受診し、千円以上の自己負担があったことを証明する領収書とサービス券の送付があれば千円分のクオカードと引き換える。サー

ビス券の利用により、がん検診受診率の向上に寄与する狙いもある。新規入会者を含め賛助会員の全員にサービス券を配布した。サービス券の利用者は28年度の1年間で61人(27年度は60人)。

《協会の運営》

【決算および寄付の状況】

① 28年度末の正味財産について

28年度末の正味財産額は2027万円で、前年と比較して91万円減少した。収支は、経常収益(収入)が1493万円、経常費用(支出)が1584万円で、支出の削減(前年比262万円減少)に努めたが収入の減少(前年比403万円減少)が大きく、正味財産は減少した。過去3年間の正味財産の増減は25年度(329万円増加)、26年度(17万円減少)、27年度(9万円増加)という結果である。

② 受取寄付金とその内訳について

平成27年度の受取寄付金(会費を含む)は1484万円で、前年度に比べてマイナス406万円と大きく減少した。過去3年間の寄付金は25年度2274万円、26年度1674万円、27年度1890万円である。

寄付金の内訳は、賛助会員からの会費収入が440万円、会員数は668件、前年度に比べそれぞれ24万円、60件の減少となった。会員のうち、維持会員(年会費2千円以上の個人)は565件、特別会員(同1万円以上の個人または法人)は103件。うち、新入会員は過去のがん研究助成奨励金受賞者に協力を依頼した効果もあり、30件と前年から大幅に増加した。しかし、高齢などの理由で維持会員の退会があり、会員数の減少が続いている。寄付金は1044万円、86件で、前年度に比べ金額で342万円減少、件数では4件増加した。

【収入増に対する取り組み】

① 特定寄付の確保

がん研究助成奨励金事業については、1社から30万円の寄付金を得た。

② 募金型自動販売機

飲料メーカーと連携し、「がん征圧支援」を掲げる自動販売機の設置に取り組むことで、協会の収入増と知名度アップをめざしている。28年度は大阪市北区の朝日新聞社に追加して設置され、合計10台となった。募金型自販機を通じた収入は年間約200万円になり、安定した財源になっている。

以上